

令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第3回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年7月15日（土）9:30～16:00

参加者：4名（学生：2名 外部：2名 教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林

■第3回 春日山の石仏（滝坂の道・地獄谷）

2023年7月15日（土）9:30～15:30

概要：春日山原始林の特徴とも言える文化的背景である石仏群を巡り、自然と人の関わりについて学びます。

9:30 飛鳥中学校校門前集合

9:50 挨拶・フィールドワークスタート

10:10 白乳神社横の仏像見学

10:30 滝坂の道・入口（妙見宮道標付近）にて感性の体操

10:50 滝坂の道散策・寝仏、夕日観音、三体地藏、滝坂地藏、朝日観音 見学

12:30 首切り地藏到着・昼食

13:00 地獄谷へ移動

13:30 地獄谷石窟仏見学

13:50 春日山石窟仏見学

14:50 新池上手の阿弥陀磨崖仏見学

15:00 首切り地藏休憩所から滝坂の道を下山

15:30 飛鳥中学校前にて解散

■概要報告

第3回目となる春日山原始林フィールドワークのテーマは「石仏」。春日山原始林の南端を走る旧柳生街道（滝坂の道）には、奈良時代より僧侶の行場として活用されており、いくつかの石仏が残されている。今回のフィールドワークでは、石仏を中心にフィールドワークを実施。時代背景などを想像しながら散策した。

学生の参加者は、4回生と1回生の2名。また、報告者が所属する「春日山原始林を未来へつなぐ会」のメンバー2名が参加した。

集合場所の飛鳥中学校から滝坂の道への途中、春日大社境内地にある「白乳神社」の傍に、首の折れた仏像があり、これを見学した。よくよく見ると背中部分に袈裟も彫られていた。

そこから、滝坂の道入口付近の妙見宮参道の広場で、恒例の五感の体操を実施。苔の気持ち良い場所のため、寝転んで地面も感じる体験を行った。

滝坂の道については、過去と現在によるシカの影響や、現在の植生保護柵などを確認するとともに、ムクロジや倒木の様子など自然の様子についても観察等を行った。また、滝坂の道沿いの「寝仏」「夕日観音」「滝坂三体地蔵」「滝坂地蔵」「朝日観音」など歩道から確認できる石仏について見学し、場所によっては、双眼鏡なども用いて観察を行った。

昼食を首切り地蔵休憩所ですとった後、この日のメインである地獄谷石窟仏へと向かった。春日山原始林から林野庁の管轄となる地獄谷国有林に入る。人工林の森だが、土砂が削られ、シカの樹皮剥ぎによる枯死木なども見られた。

高円山ドライブウェイを横切り、地獄谷石窟仏へ。奈良時代の作とも言われるこの石仏は、それまでのものとは異なり、細い線で繊細な仏像が印象的であった。参加学生も非常に関心を持って観察していた。なお、住所地が記載されている林野庁の看板は「奈良市高畑大字地獄」となっている。

その後は、高円山ドライブウェイから春日山石窟仏へと登り、見学。地獄谷石窟仏とは時代が異なるが、こちらにも規模の大きな洞窟に多くの石仏が彫られており、参加学生は熱心に見学をしていた。





また、石窟仏への途中、奈良公園や春日山の天然記念物境界とともに「大乘院殿御領山」と掘られた石柱も確認し、かつて周辺に興福寺の支配が及んでいたことも確認した。

春日山石窟仏から、滝坂の道を少し下り、途中道を外れたところにある「新池上手の阿弥陀磨崖仏」を最後に見学。目線より下に掘られた石仏は、どこか愛嬌のある顔立ちなのが印象的であった。

再び首切り地蔵に戻ってから、滝坂の道を下山し、飛鳥中学校で解散。

この日の気温は 30℃を超える状況であったが、滝坂の道は川沿いの木陰のため終始涼しい風が吹いていた。1日でもかなり多くの石仏を見て回ることができ、満足度の高いフィールドワークとなった。

■写真

	
<p>森で寝転がる</p>	<p>寝仏</p>
	

滝坂地蔵



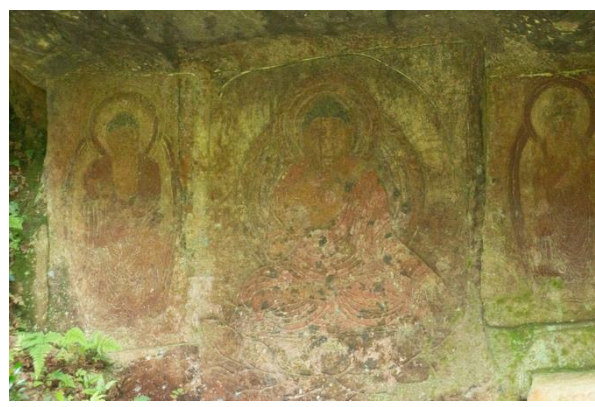
朝日観音



ニホンヒキガエル



奈良の地獄



地獄谷石窟仏を見学



地獄谷石窟仏・左右の壁にも線刻されている



地獄谷付近では変形菌（粘菌）も観察できた

春日山石窟仏の西側の如来像